

こまぼんのなるほど! みなと講座



～港湾・空港のことをもっと知っていただくために～

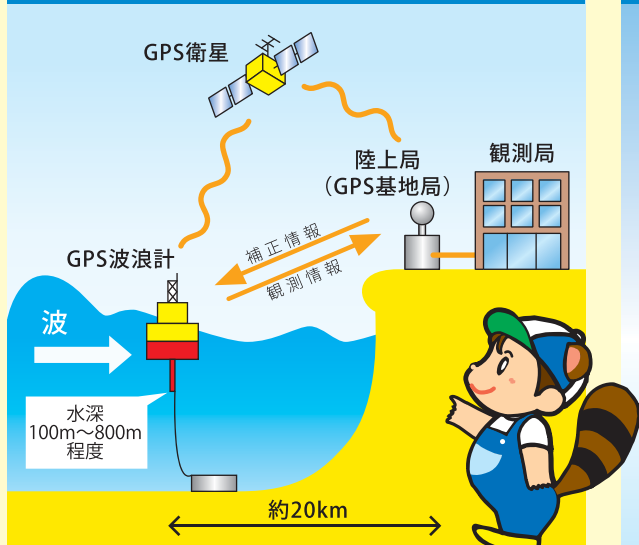
— 第19回 — GPS波浪計

カーナビゲーションなどで使われているGPS（衛星利用測位システム）アンテナを、海上に浮かべたブイに搭載し、ブイの3次元の動きを直接観測して波浪の周期、波向き、波高を解析するシステムです。

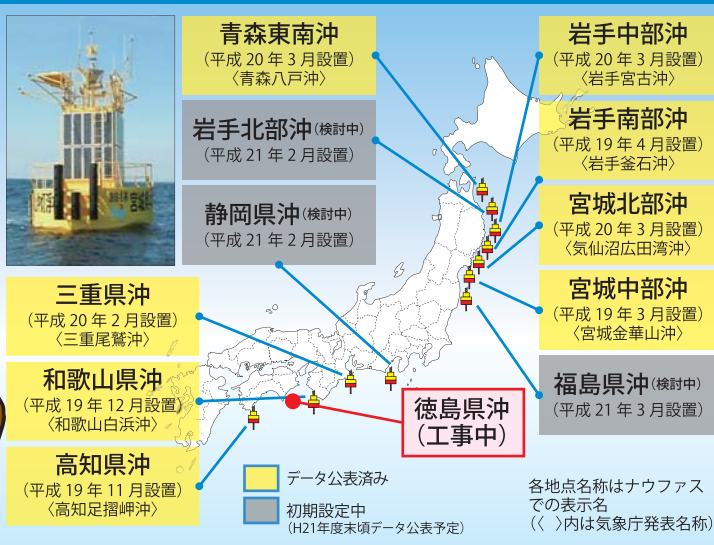
今回は、GPS波浪計の概要について紹介します。

ぼくの名前は「こまぼん」。小松島港湾・空港整備事務所のマスコットキャラクターだよ。タヌキの耳とつぼが目印。一般公募によって名前がつけられたんだ。

GPS波浪計システムの概要

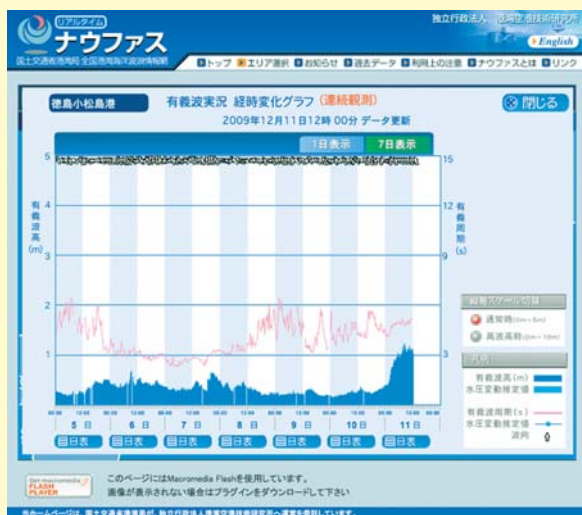


GPS波浪計観測地点一覧及びデータ公表状況



GPS波浪計は、沖合に浮かべたブイの上下変動をリアルタイムで観測し分析することにより、波浪や潮位の海象データを収集します。港湾整備の設計・施工には沖合の波浪データが重要で、現在、計画的に全国でのGPS波浪計のネットワーク整備が進められています。また、沿岸部よりいち早く津波を検知出来るため、東南海・南海地震等の津波に対する迅速な観測と情報伝達が可能となります。

設置場所は電波通信の性能より、陸上局から約20km以内。（大きく超えると誤差が生じます。）水深数百mの位置に設置することで、海底等の地形や水深による波浪変形の影響を受けない精度のよい観測が可能となります。



現在、青森県から高知県足摺岬沖までの太平洋側に設置されているGPS波浪計8基について、観測された海象情報は「ナウファス（全国港湾海洋波浪情報網）」により、WEBサイトを通じてリアルタイムで公開されています。近々、岩手北部、福島県、静岡県沖の3基もナウファスに追加され、公開データは11基になる予定です。また、来年早々には徳島県南部の県境に近い竹ヶ島沖（沖合約20km、水深約430m）にも新たに1基設置します。

徳島県竹ヶ島沖に設置するGPS波浪計も、設置後に暫く観測データの検証を行い、地域の防災・減災対策に貢献できるよう早期の本格運用（データ公開）を目指します。



（ナウファスURL）
<http://www.mlit.go.jp/kowan/nowphas/>